自主課題研究
自伝的記憶と視点との関連性

工学部情報システム工学科３年０４６平川翔太

6146hira; 2009/02/03 16:02:38

1.記憶について

自伝的記憶はエピソードの一部に分類され、エピソード記憶は宣言的記憶の一部に分類されている。宣言的記憶とは、人間の記憶の一種で、事実と経験を保持するものであり、宣言的記憶は意識的に議論したり、宣言したりすることができる。

宣言的記憶は意識的に記憶され、一方非陳述記憶は意識しなくても記憶される。教科書を使った学習や知識は宣言的記憶として保持され、心の眼で再体験できる。

また、宣言的分野はエピソード記憶の他に意味記憶に分類され、意味記憶とは時間や場所に依存しない事実や知識であり、エピソード記憶はある器官と場所での出来事についての記憶である。また、エピソード記憶には感情も含まれる。

エピソード記憶は「一回限り」の学習機構であると考えられている。あるエピソードを一回体験しただけで、それを記憶するのである。一方で意味記憶は繰り返し同じ事物を記憶することが影響する。その事物に触れるたびに脳内の意味表現は変化していく。

2.実験の解説

・被験者：大学生 26 名(男子 16 名、女子 10 名)

・実験 1 では被験者に「昨晩の夕食時の光景」「半年以上前の光景」の何れかを思い出してもらい、その時の光景をどういった視点で眺めているかのデータ採取を行った。

・実験 2 では被験者に「ポジティブ出来事の記憶」「ネガティブな出来事の記憶」のいずれかを思い出してもらい、その時の光景をどういった視点で眺めているかのデータ採取を行った。

・注意事項：実験 1、実験 2 共に、一人に両方の質問をすると正確なデータ採取が行えないためにそれぞれの質問に対して 13 人ずつのデータ採取を行った。

実験結果は以下の表に示す。

	一人称	三人称
前日	10	3
半年以上前	2	11

表 1：実験 1 の結果(人数)

	一人称	三人称
ポジティブ	11	2
ネガティブ	3	10

表 2：実験 2 の結果(人数)

実験 2 の結果の一例として、ポジティブな出来事の記憶は『母校の甲子園優勝』であり、ネガティブな出来事の記憶は『第一志望に進学できなかったこと』であった。

3.考察

3-1.実験 1

自伝的記憶における時間と視点との関連性

『最近の記憶が一人称の視点から思い出される傾向にあり、また時間的距離のある記憶が三人称の視点から思い出される傾向にある。』という前提条件のもと、実験データを考察すると、最近の記憶が一人称視点によって思い出され昔の記憶が三人称視点によって思い出されるのは、記憶そのものが時間を経ることによって一人称視点から三人称視点へと徐々に変化していくからであり、昔の出来事は時間を経るだけ三人称視点へと置換されていく。

3-2.実験 2

自伝的記憶における情緒と視点との関連性

『ネガティブな記憶となっている出来事は三人称視点に置換されることが多い』『例えば、PTSD を生じている被験者は記憶によって関連付けられた感情や不安を一人称視点の方が三人称視点より報告している』という前提条件のもと、実験データを考察すると、ネガティブな記憶が三人称視点から思い出される傾向にある理由としては、三人称視点に置換することによってトラウマとともに連想された精神的や肉体的苦痛から少しでも和らげようとするからである。また、ポジティブな記憶の場合に関しては、精神的や肉体的苦痛がないために一人称視点によって記憶が保存さ手も問題はない。

6146hira; 2009/02/03 16:02:50